

福岡市都心部における休日の回遊行動とその意識に関する一考察

福岡大学工学部 学生会員 ○ 十亀 良幸 福岡大学工学部 学生会員 吉田 成美
 福岡大学工学部 正会員 辰巳 浩 福岡大学工学部 正会員 堤 香代子

1. はじめに

平成23年3月の九州新幹線全線開通にともない、福岡市博多区にJR博多シティが開業した。従来、福岡市都心部は天神地区が商業の中心で、博多駅地区が業務の中心と位置づけられ、さらに、キャナルシティ博多が新たな商業核として位置づけられていた。しかし、九州新幹線の全線開通にともない博多駅地区に新しい大規模商業施設が誕生したことで、これまでの都市構造に変化が生じている。

そこで本研究では、こうした状況を踏まえ、福岡市都心部における来街者の回遊行動とその意識を把握することを目的とし、休日の買物、飲食、娯楽などの私用目的の回遊行動を対象に分析を行った。

2. アンケート調査の概要

本研究では、天神地下街駐車場(北・南)、博多駅サイドパーキング、福岡天神駅・PARCO間広場、JR博多駅コンコースの計4ヶ所においてアンケート調査を実施した。表-1に調査の概要を示す。4ヶ所で3,885部配布し、576部が回収され、回収率は14.8%であった。被験者は男性198名、女性361名であり、年齢層においては大きな偏りはみられなかった。また、本研究では私用目的の回遊行動を分析対象とするため、私用目的のサンプルのみを抽出したところ、全体の82%を占め、サンプル数は468名となった。以下では、この468名のデータに基づく分析結果を示す。

表-1 アンケート調査の概要

配布・回収方法	調査員による配布、郵送回収			
調査項目	・個人属性・都心部への主な来街目的・一日の回遊行動について ・一日の回遊行動について・回遊行動意識について など			
調査日	配布場所	配布部数	回収部数	回収率
10月7日	天神地下街駐車場(北・南)	1159	195	16.8%
	博多駅サイドパーキング	726	68	9.4%
	福岡天神駅・PARCO間広場	1000	161	16.1%
10月14日	博多駅コンコース	1000	152	15.2%
	計	3885	576	14.8%

3. 分析結果

3.1 都心部での回遊行動に関する分析

(1) 回遊回数に関する分析

図-1は福岡市都心部の3地区間の回遊回数の割合を示す。ここで回遊回数1回とは、都心部で最初に訪れた地区の

みに滞在し、その他の地区への回遊がなかった被験者を表している。都心部での回遊回数は1回が約70%を占め、回遊回数が4回を超えるものは非常に少ないことがわかる。また、男女別にみると、男性の方が回遊回数が多く、利用交通手段別にみると、自家用車利用者はその他の交通手段利用者(主に公共交通)に比して回遊回数が少ないことがわかる。

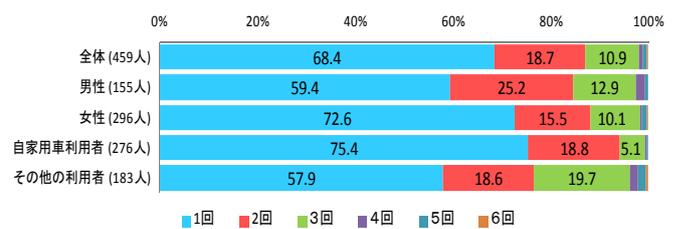


図-1 福岡都心部での回遊回数

(2) 回遊順序別の平均消費金額

表-2は何か所目でどれだけの金額を消費したかを地区別に表している(お金を使った被験者のみの平均値。以下、同様)。都心部全体、天神地区、博多駅地区についてみると、1カ所目で訪れた場合の平均消費金額が最も高く、2カ所目、3カ所目となるにつれ、消費金額が下がることがわかる。キャナルシティ博多については、その傾向が異なるが、サンプル数が少ないことが原因と考えられる。また、地区別の平均消費金額についてみると、天神地区での消費金額が最も高く、博多駅地区、キャナルシティ博多の順となっている。

表-2 地区別・回遊順序別の平均消費金額

平均消費金額	1カ所目	2カ所目	3カ所目
天神地区	31,302円 (274人)	17,366円 (50人)	16,366円 (10人)
キャナルシティ博多	4,892円 (12人)	6,409円 (14人)	2,633円 (3人)
博多駅地区	13,823円 (106人)	8,401円 (26人)	6,158円 (12人)
都心部全体	25,767円 (392人)	13,072円 (90人)	9,818円 (25人)

表-3は表-2を利用交通手段別に表したものである。自家用車利用者はその他の交通手段利用者に比して平均消費金額が高いことがわかる。

表-3 利用交通手段別・地区別・回遊順序別の平均消費金額

平均消費金額		1カ所目	2カ所目	3カ所目
天神地区	自家用車	41,821円 (182人)	21,304円 (29人)	25,266円 (4人)
	その他	10,490円 (92人)	11,928円 (21人)	10,433円 (6人)
キャナルシティ博多	自家用車	7,454円 (7人)	4,675円 (2人)	0円 (0人)
	その他	1,305円 (5人)	6,698円 (12人)	2,633円 (3人)
博多駅地区	自家用車	17,352円 (51人)	5,933円 (13人)	4,400円 (4人)
	その他	10,551円 (55人)	10,869円 (13人)	7,037円 (8人)
都心部全体	自家用車	35,619円 (240人)	16,007円 (44人)	14,833円 (8人)
	その他	10,210円 (152人)	10,265円 (46人)	7,458円 (17人)

(3) 品目別の平均消費金額

図-2は各地区における品目別平均消費金額を示している。全品目での平均消費金額は、天神地区が28,987円、キャナルシティ博多が5,151円、博多駅地区が12,140円であった。ここで、天神地区の特徴として、高額消費者が他の地区に比して多いことが挙げられ、それにより平均消費金額が高くなっている。また、品目別にみると、天神地区が多く品目で平均消費金額が最も高く、特に衣料・雑貨で差が大きい。娯楽では、キャナルシティ博多での平均消費金額が最も高く、天神地区が最も低い結果となったが、サンプル数が少ないことから信頼性がやや劣っている。飲食については、3地区の平均消費金額には大きな差はみられない結果となった。

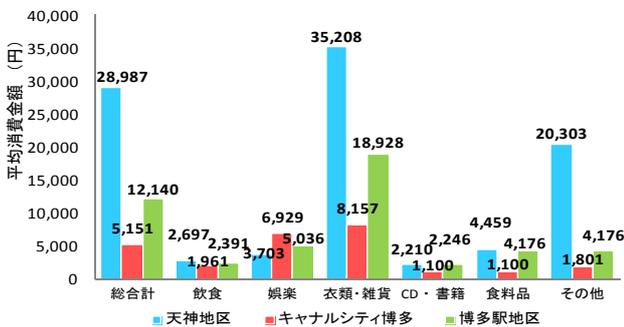


図-2 品目別平均消費金額

図-3および図-4は、利用交通手段別に表したものである。自家用車利用者についてみると(図-3)、全品目での平均消費金額は天神地区が他の地区に比して高く、品目別にみると、天神地区での衣料・雑貨の金額が突出していることがわかる。一方、その他の交通手段利用者についてみると(図

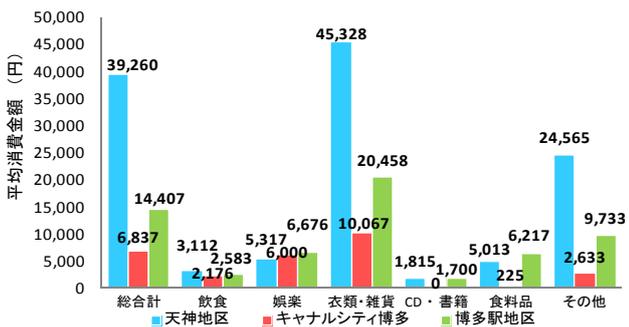


図-3 自家用車利用者の品目別平均消費金額

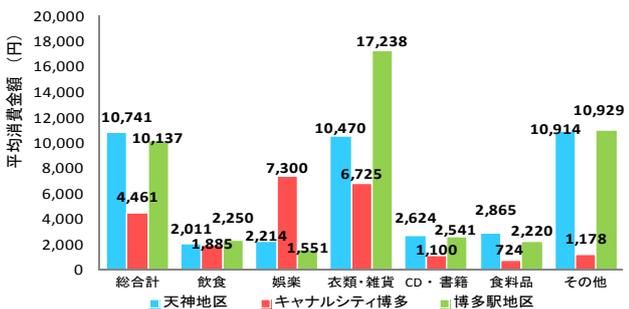


図-4 その他の交通手段利用者の品目別平均消費金額

-4)、全品目では天神地区と博多駅地区でさほど大きな差はない結果となっている。また、品目別にみると、衣料・雑貨では天神地区に比して博多駅地区の方が高くなっており、自家用車利用者の結果とは逆となっている。

全品目について、自家用車利用者とその他の交通手段利用者を比較すると、いずれの地区も自家用車利用者の平均消費金額が高く、特に天神地区での自家用車利用者の金額が高いことがわかる。

3.2 各地区の魅力に関する分析

図-5はJR博多シティ開業前後における各地区の訪れたい順位の変化を示している。平成23年のJR博多シティ開業後は、開業前に比して天神地区を1位とする割合が31%減少し、博多駅地区を1位とする割合は34%増加したが、開業した年と開業後1年半経過した時点と比較すると、後者では天神地区の1位の割合が8%増加し、博多駅地区では逆に8%減少している。また、開業前、開業後、開業後1年半のいずれにおいても、天神地区を1位とする割合が最も高い結果となっている。

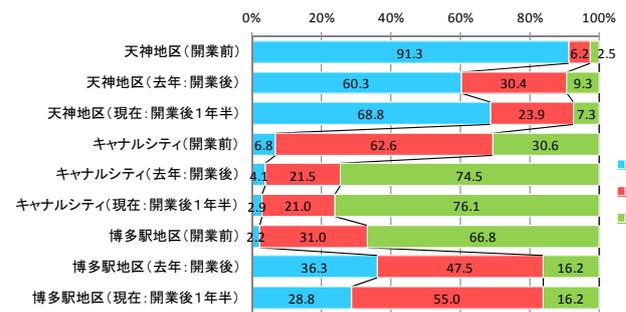


図-5 訪れたい順位の変化

4. まとめ

本研究は、福岡市都心部においてアンケート調査を実施し、都心部における来街者の回遊行動とその意識について分析した。その結果、JR博多シティの開業により博多駅地区の魅力が向上し、人々の興味が博多駅地区へと移ったが、開業から1年半経過し、開業直後の盛り上がり落ち着いた、人々の興味がやや元に戻ったことがわかった。また、地区別の魅力度や消費行動についてみると、依然、天神地区が優位に立っており、利用交通手段別にみると、特に自家用車利用者の平均消費金額が高いことも明らかとなった。また、自家用車利用者は天神地区と博多駅地区で平均消費金額に大きな差があるのに対し、その他の交通手段利用者ではその差が小さいことも明らかとなった。

参考文献

宮崎浩輔・辰巳浩・堤香代子:JR博多シティの開業に伴う回遊行動の変化に関する研究, 土木学会西部支部研究発表会講演概要集, pp.657-658, 2012.3